



最近の県内経済情勢

平成24年1月25日

財務省関東財務局
千葉財務事務所

照会先
千葉財務事務所 財務課 (TEL 043-251-7213)
ホームページ <http://kantou.mof.go.jp/chiba/>

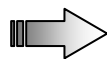
厳しい状況にあるなか、おおむね横ばいの動きとなっている。

(今回のポイント)

- 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- 住宅建設は前年を下回っている。
- 製造業の生産はおおむね横ばいとなっている。
- 設備投資は増加見込みとなっている。
- 企業収益は減益見込みとなっている。
- なお、雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。



前回(23年7-9月期)
厳しい状況にあるものの、
上向きの動きが続いている。

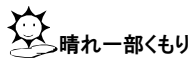


今回(23年10-12月期)
厳しい状況にあるなか、
おおむね横ばいの動きとなっている。

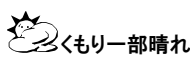
(凡例)



晴れ



晴れ一部くもり



くもり一部晴れ



くもり



本ぐもり



小雨



雨

(各 論)

□個人消費……おおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額は、前年を下回っている。

コンビニエンスストア販売額は、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、前年を上回っている。

千葉市の家計消費支出は、前年を上回っている。

□住宅建設……前年を下回っている。

新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、分譲住宅ともに前年を下回っている。

□設備投資……23年度は増加見込みとなっている。

法人企業景気予測調査(23年10~12月期調査・11月15日調査時点)で23年度の設備投資計画をみると、製造業では前年比19.0%の増加見込み、非製造業では同▲1.9%の減少見込みとなっており、全産業では同4.2%の増加見込みとなっている。

□公共事業……おおむね前年並みとなっている。

公共工事請負金額をみると、おおむね前年並みとなっている。

□生産活動……おおむね横ばいとなっている。

一般機械は減少しているものの、食料品などはおおむね横ばいとなっており、石油は増加している。

□企業収益……23年度は減益見込みとなっている。

法人企業景気予測調査(23年10~12月期調査・11月15日調査時点)で**23年度の経常損益**(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)をみると、製造業は前年比▲19.8%の減益見込み、非製造業では同2.2%の増益見込みとなっており、全産業では同▲1.0%の減益見込みとなっている。

□企業の景況感……全産業で「下降」超幅が拡大している。

法人企業景気予測調査(23年10~12月期調査・11月15日調査時点)の**景況判断BSI**をみると、全産業で「下降」超幅が拡大している。規模別にみると、大企業、中堅企業は「下降」超に転じ、中小企業は「下降」超幅が縮小している。なお、業種別にみると、製造業は「均衡」から「下降」超となり、非製造業は「下降」超で推移している。

□雇用情勢……厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率は低水準にあるものの、緩やかに上昇している。なお、**雇用保険受給者実人員**は前年を下回っている。

～ヒアリング結果～

【個人消費】

- ・ 11月は暖冬であったため冬物商品が低調であったが、12月に入り寒さも厳しくなったことから売上は上昇。落花生などの地元ギフトや、クリスマスケーキ、おせちも好調。(百貨店)
- ・ 10月中旬から11月にかけて天候要因により野菜価格が下落したほか、価格競争が再燃しており、既存店売上高は落ち込んできている。(スーパー)
- ・ たばこ値上げの影響や、おにぎりなどのファストフードの好調により、全体の売上が伸びている。(コンビニ)
- ・ エコカー補助金終了後の反動減によって低水準であった前年と比べると増加しているが、2年前と比べると減少している。車の買い替え間隔が伸びていることも一因。(自動車販売店)
- ・ 前年のテレビの駆け込み需要による反動減が10月11月は大きかったが、12月は反動減が一段落し減少幅は縮小。携帯電話は前年を上回って推移しており、スマートフォンが好調。(家電量販店)
- ・ 震災や原発事故の影響もあり、入園者が前年に対して2割ほど落ち込んでいる。(レジャー施設)
- ・ 近隣レジャー施設のイベント効果などにより、宿泊者数は前年を上回って推移している。(ホテル)

【住宅建設】

- ・ 液状化や放射性物質など震災の影響により、今まで売上を牽引してきた湾岸部や東葛地域での受注の減少が大きい。(建設)

【生産】

- ・ サプライチェーンの立て直しは進んだものの、欧米の財政不安や円高、震災復興の遅れ、タイの洪水の影響等を国内の需要家が受けており、国内市場は低迷している。(鉄鋼)
- ・ 9月以降、包材・雑貨向け合成樹脂の生産減が主要因となり、プラント稼働率が低下している。(化学)
- ・ 中国をはじめとした海外での受注増を背景として、期を追うごとに回復している。(自動車部品等)
- ・ 7月のテレビの地デジ化以降、減少した需要は回復していない。(電子部品・デバイス)
- ・ タイ洪水被害の影響で自動車部品等一部に生産を国内に戻す動きがみられ、国内の売上は若干上向いている。(一般機械)

【雇用】

- ・ 来年度の新規採用者数は、技術承継の観点から退職者補充よりも多く採用している。(製造業)
- ・ 新規出店を行ったためパートを中心に増加。今後も同様の新規出店を続けるため、一定数の社員の確保に努めたい。(小売業)

最近の県内経済情勢

(資料編)

目次	(頁)
1 . 個人消費	1、2
2 . 住宅建設	2
3 . 設備投資	3
4 . 公共事業	3
5 . 生産活動	4、5
6 . 企業収益	6
7 . 景況感	7
8 . 雇用情勢	7、8
9 . 倒産	8

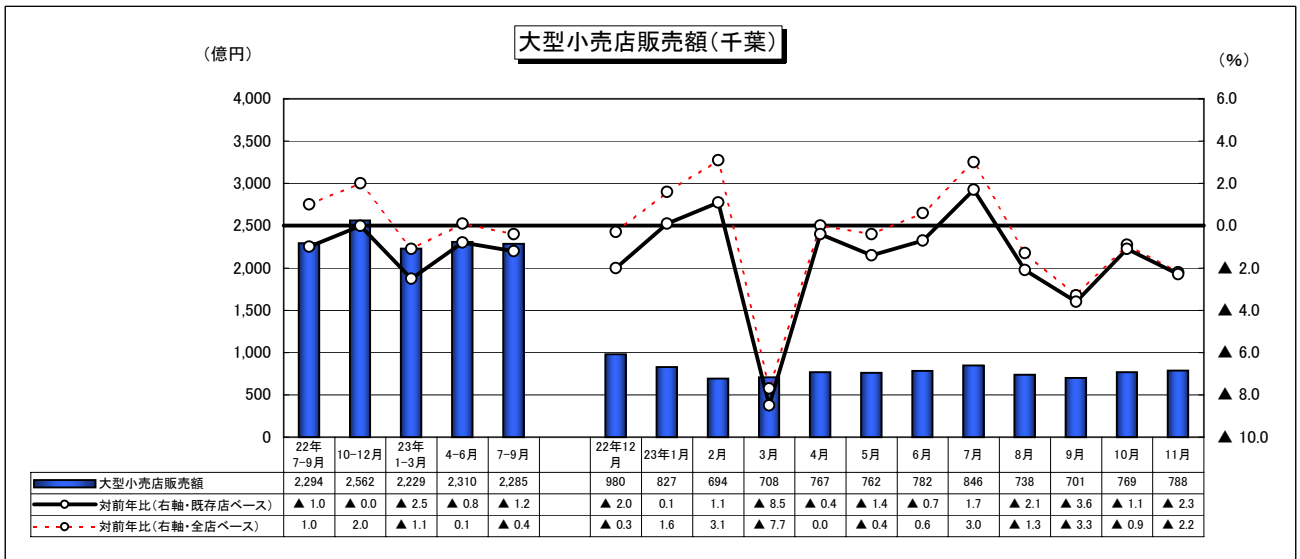
平成24年1月25日

財務省関東財務局
千葉財務事務所

1. 個人消費

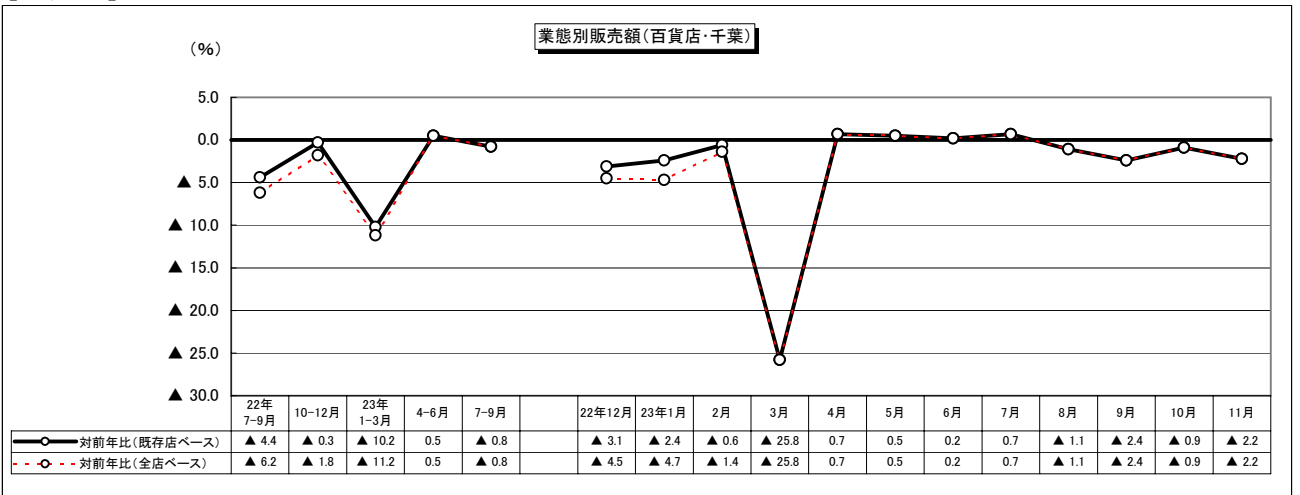
おおむね横ばいとなっている。

[グラフ1]



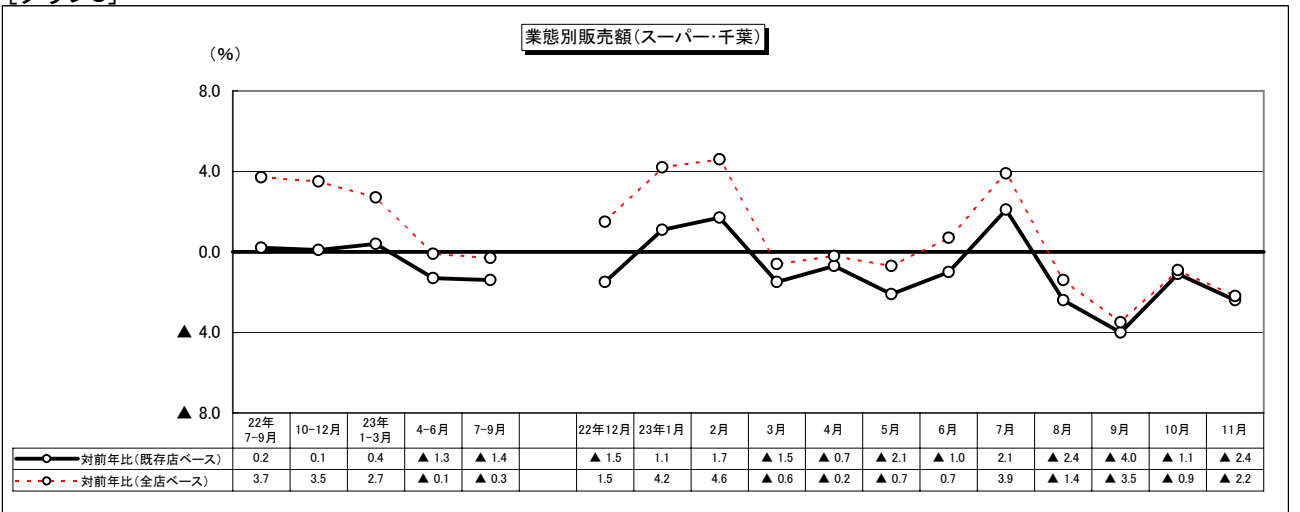
[経済産業省]

[グラフ2]



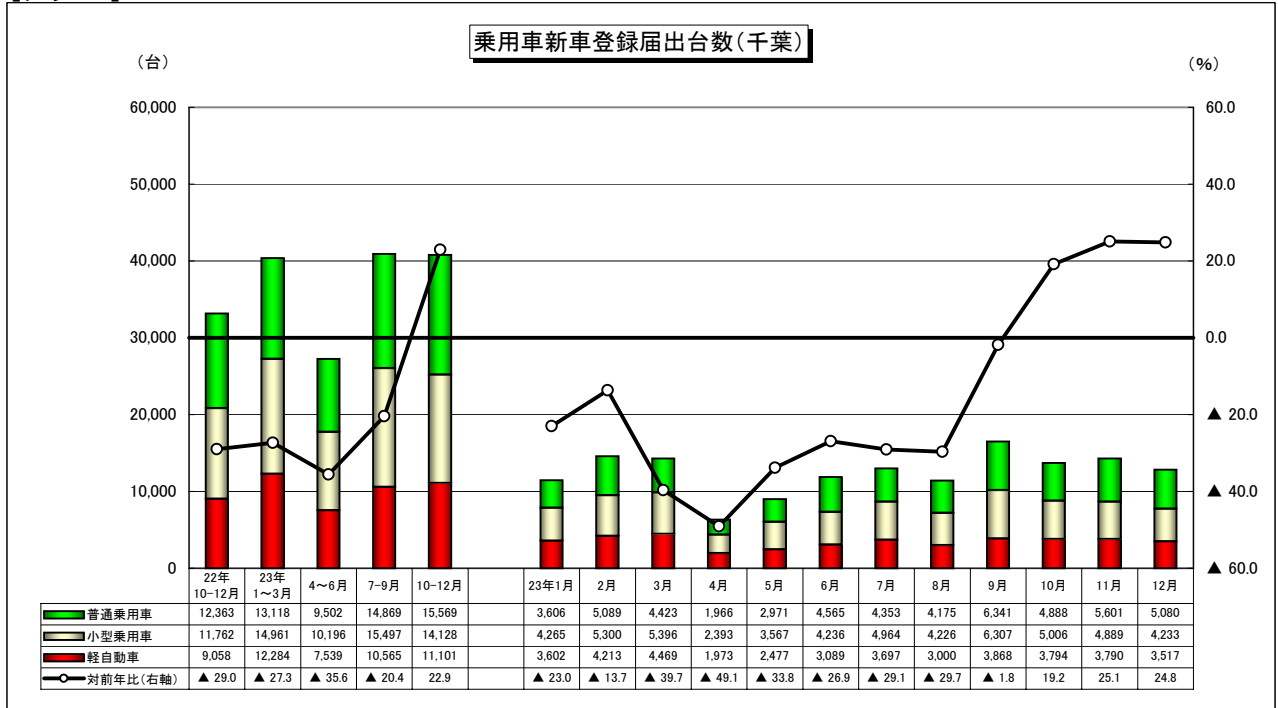
[経済産業省]

[グラフ3]



[経済産業省]

[グラフ4]

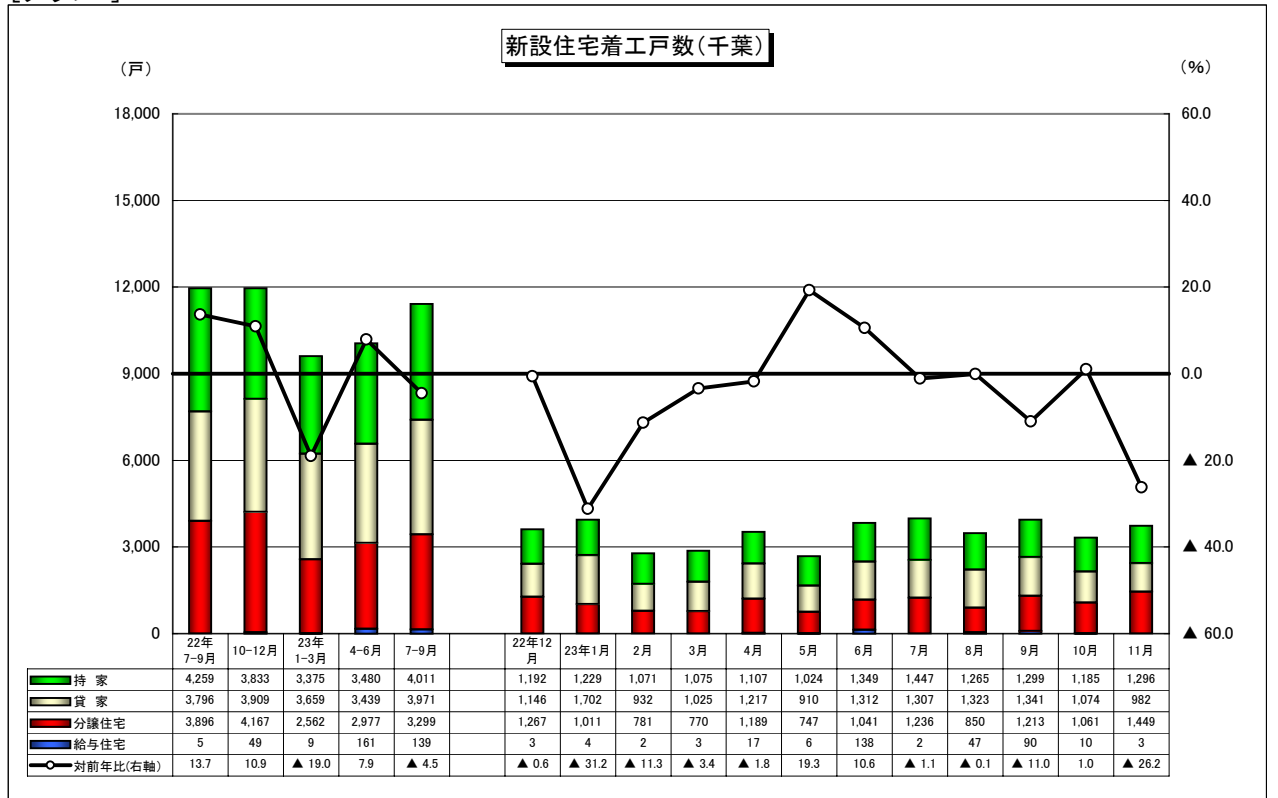


[日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会]

2. 住宅建設

前年を下回っている。

[グラフ5]

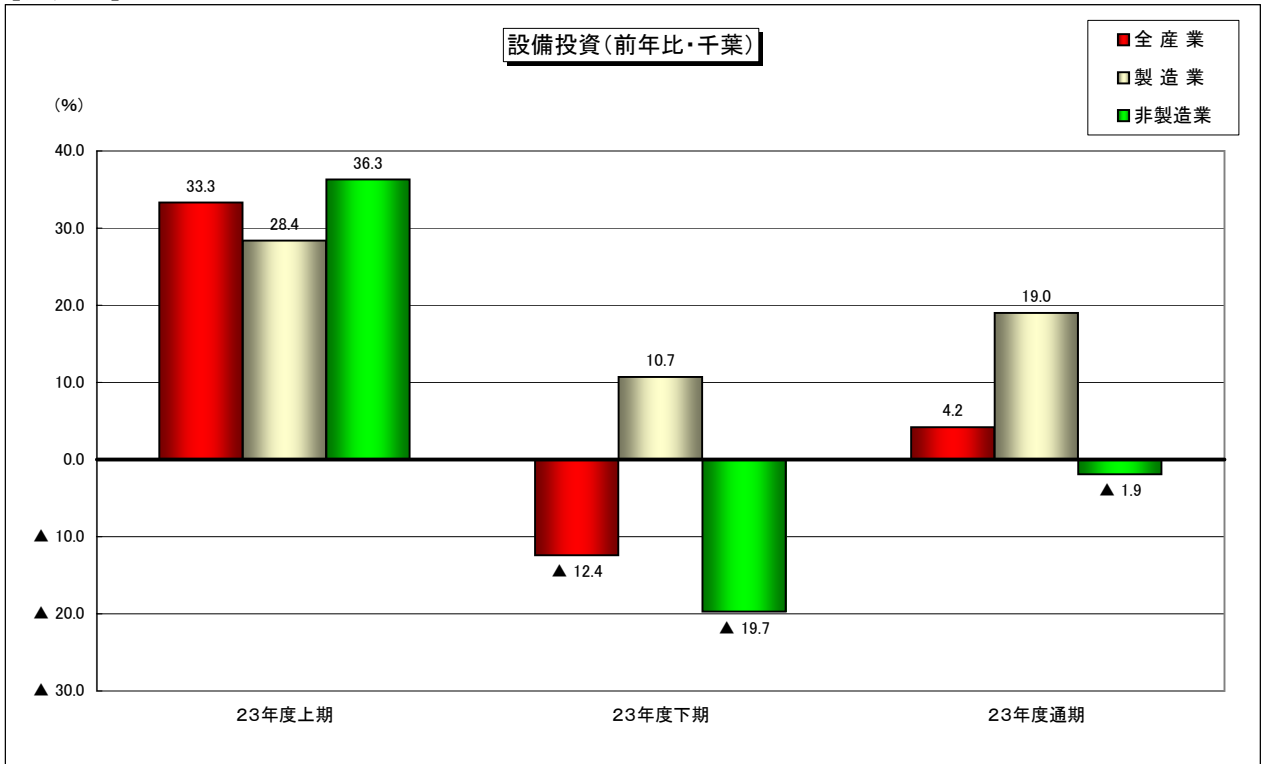


[国土交通省]

3. 設備投資

23年度は増加見込みとなっている。

[グラフ6]

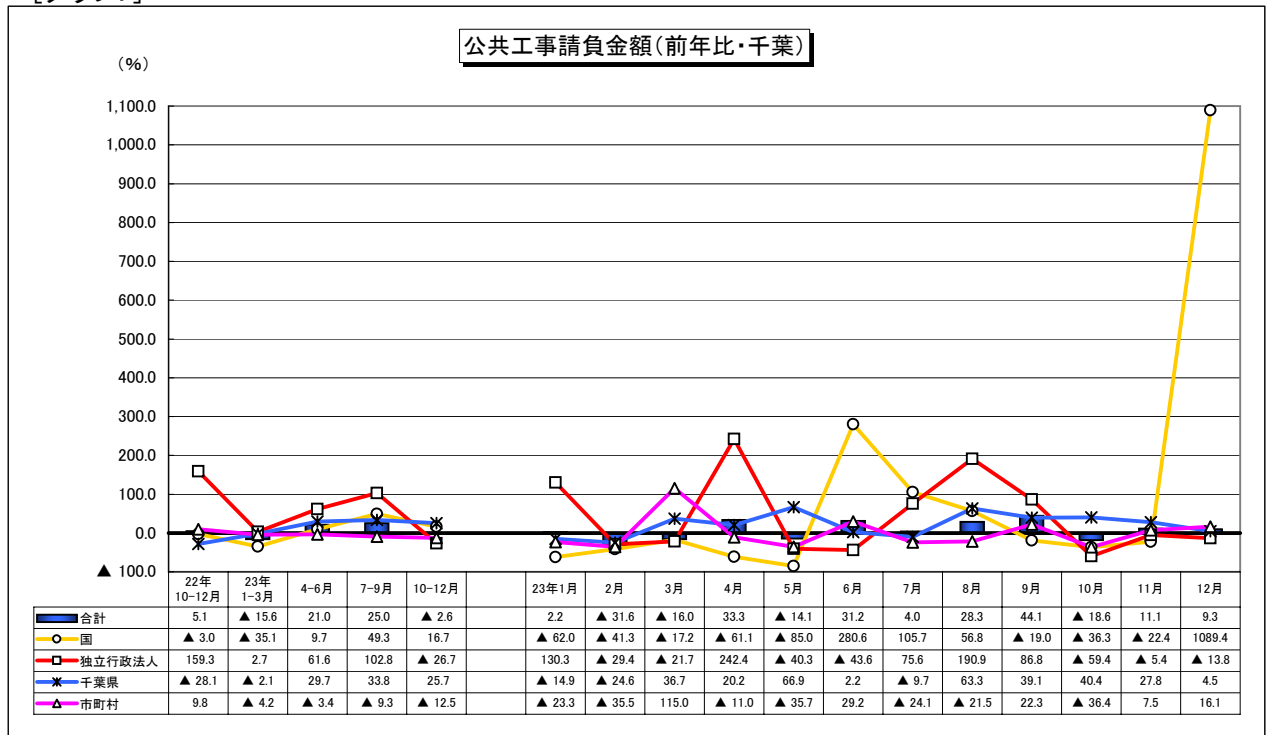


[千葉財務事務所]

4. 公共事業

おおむね前年並みとなっている。

[グラフ7]

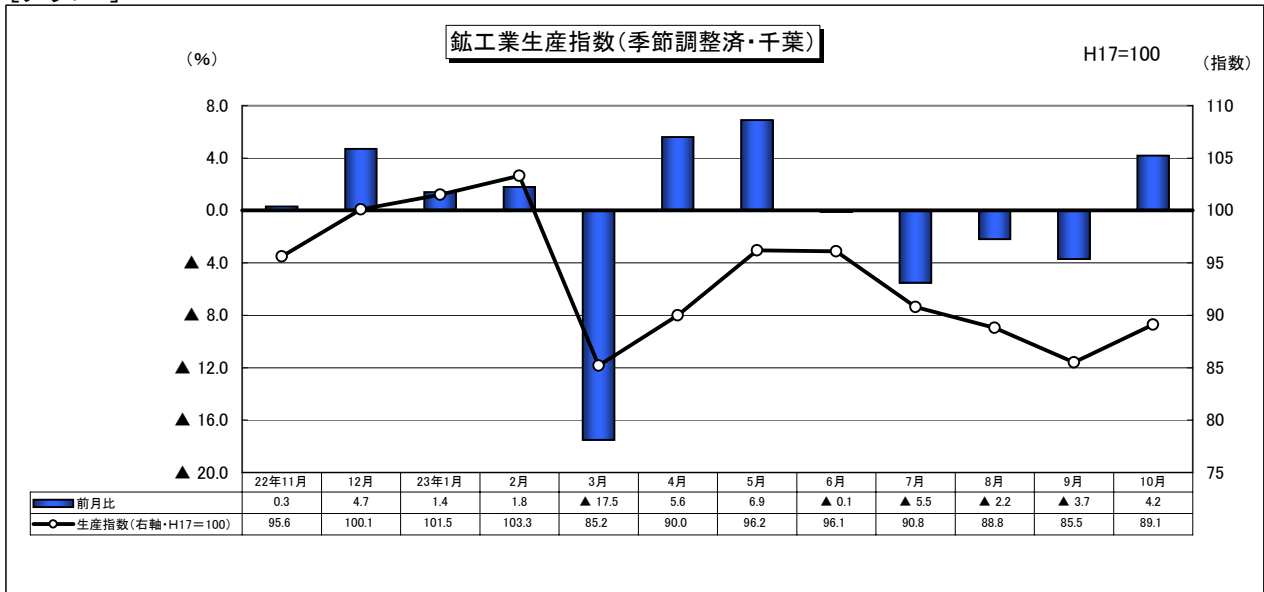


[東日本建設業保証株式会社]

5. 生産活動

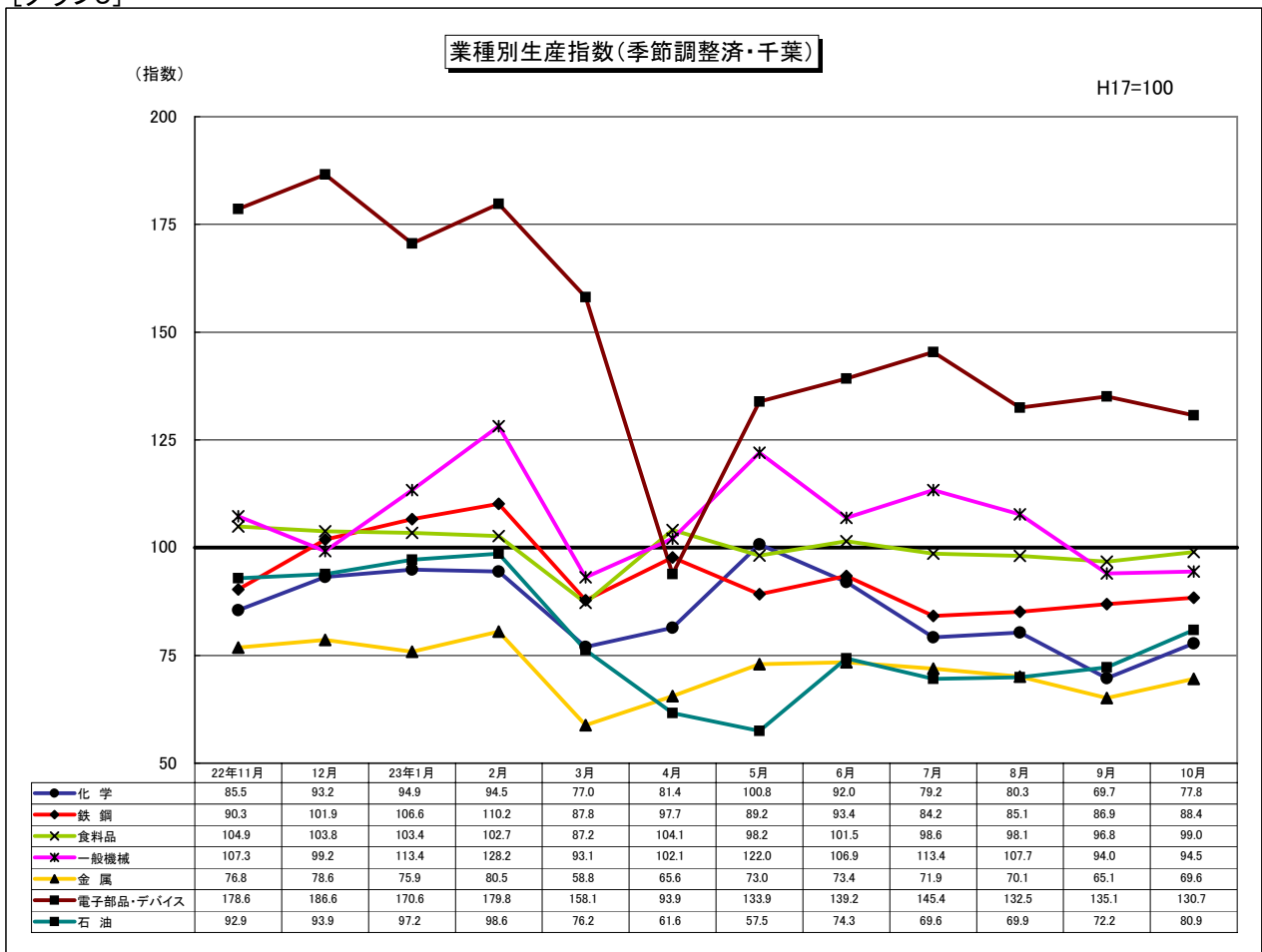
おおむね横ばいとなっている。

[グラフ8]



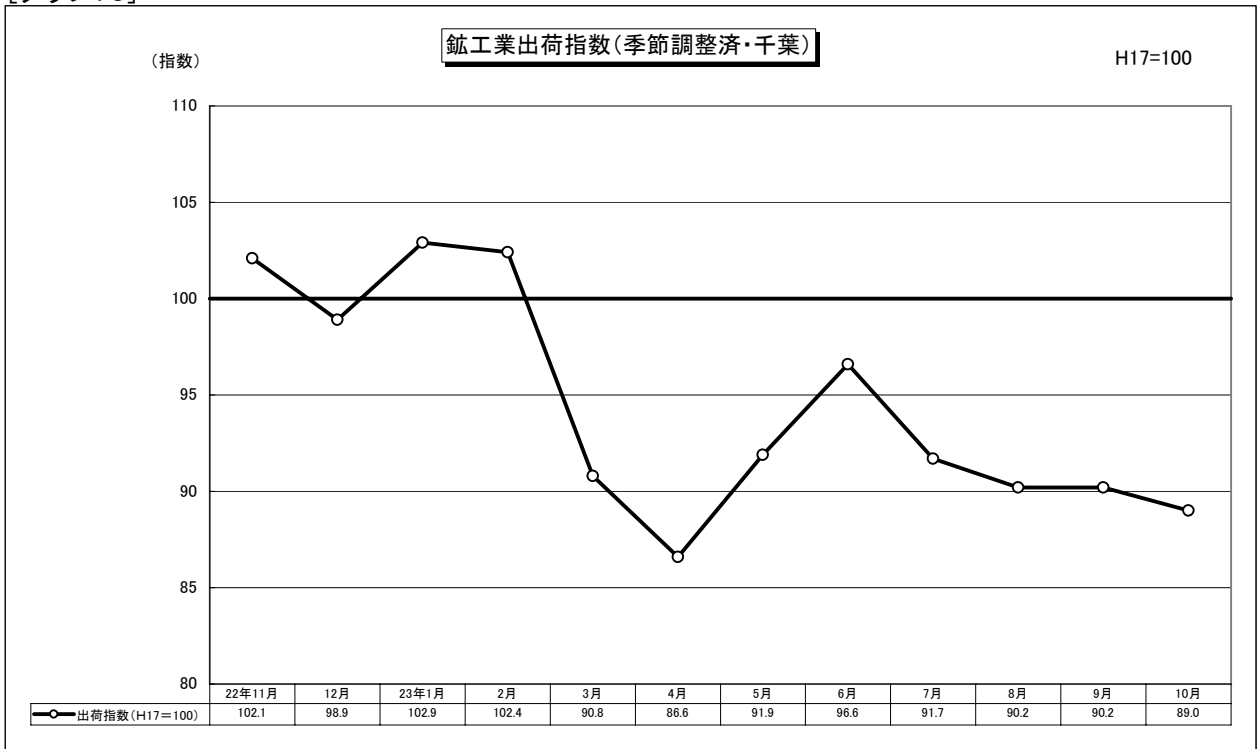
[千葉県]

[グラフ9]

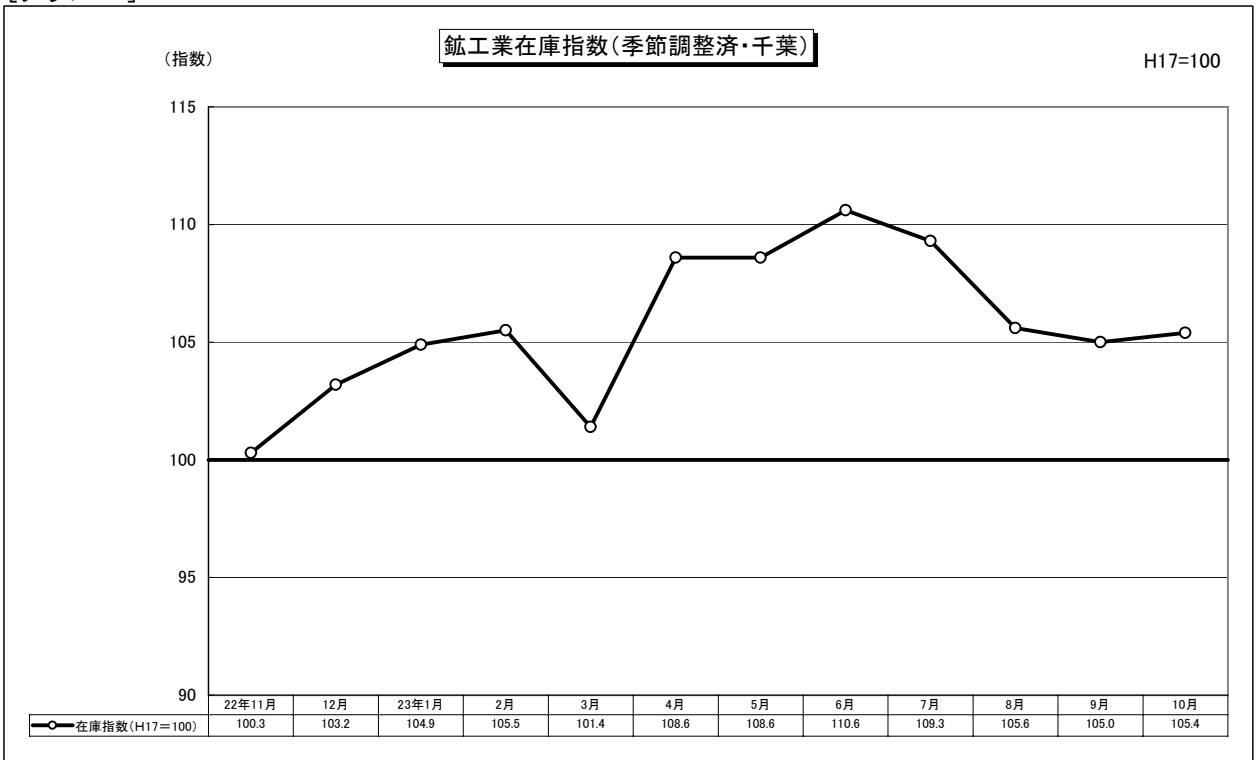


[千葉県]

[グラフ10]



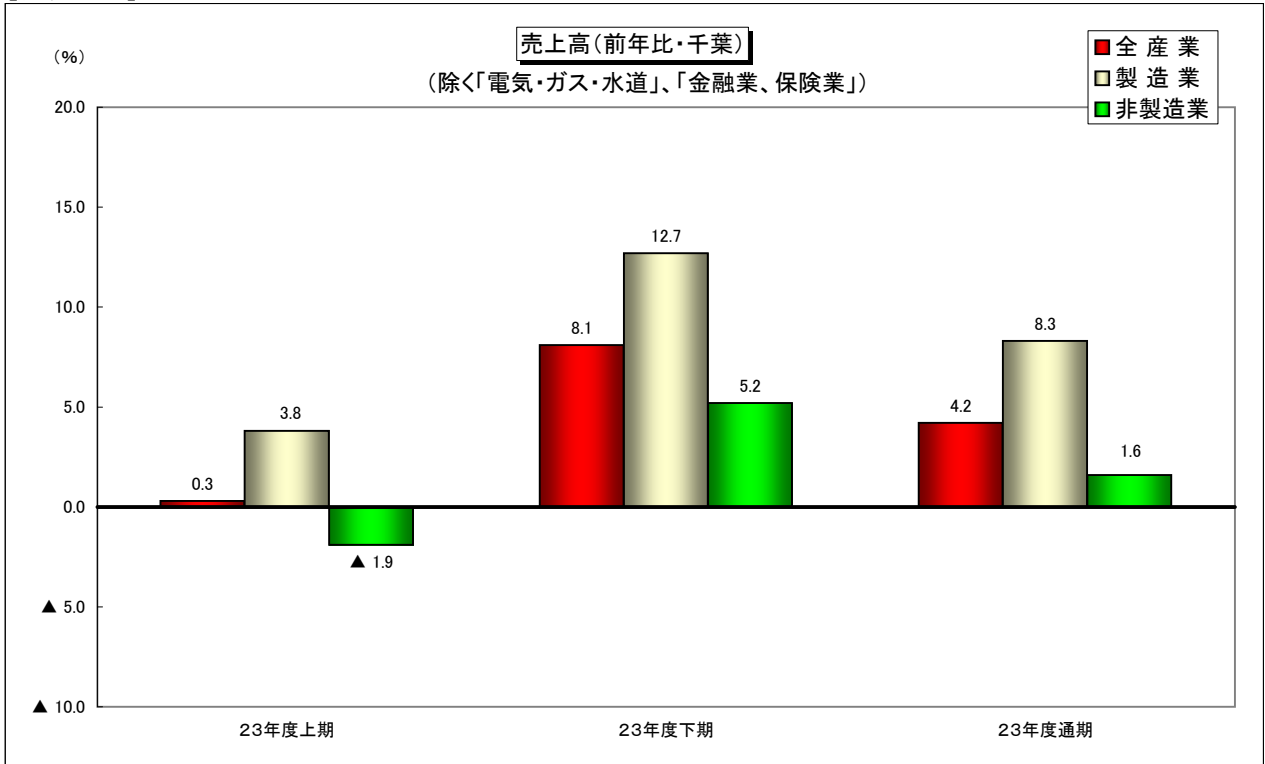
[グラフ11]



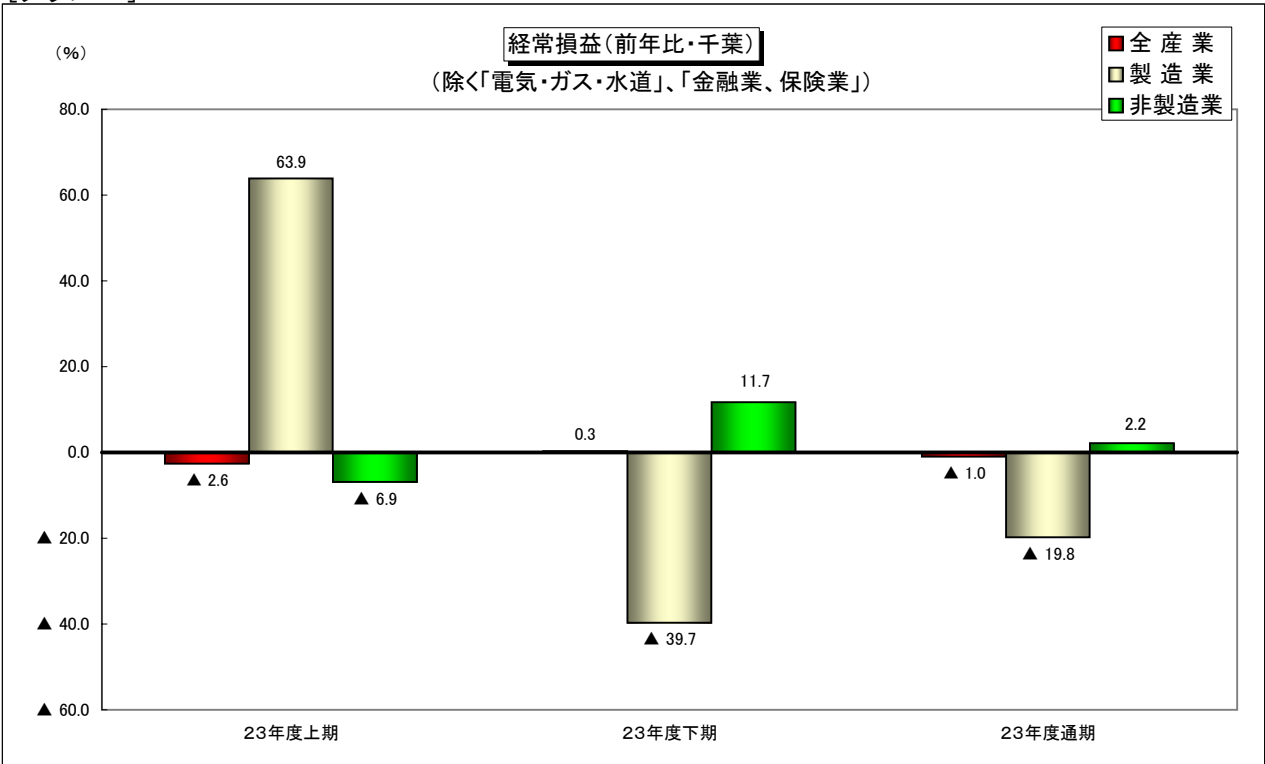
6. 企業収益

減益見込みとなっている。

[グラフ12]



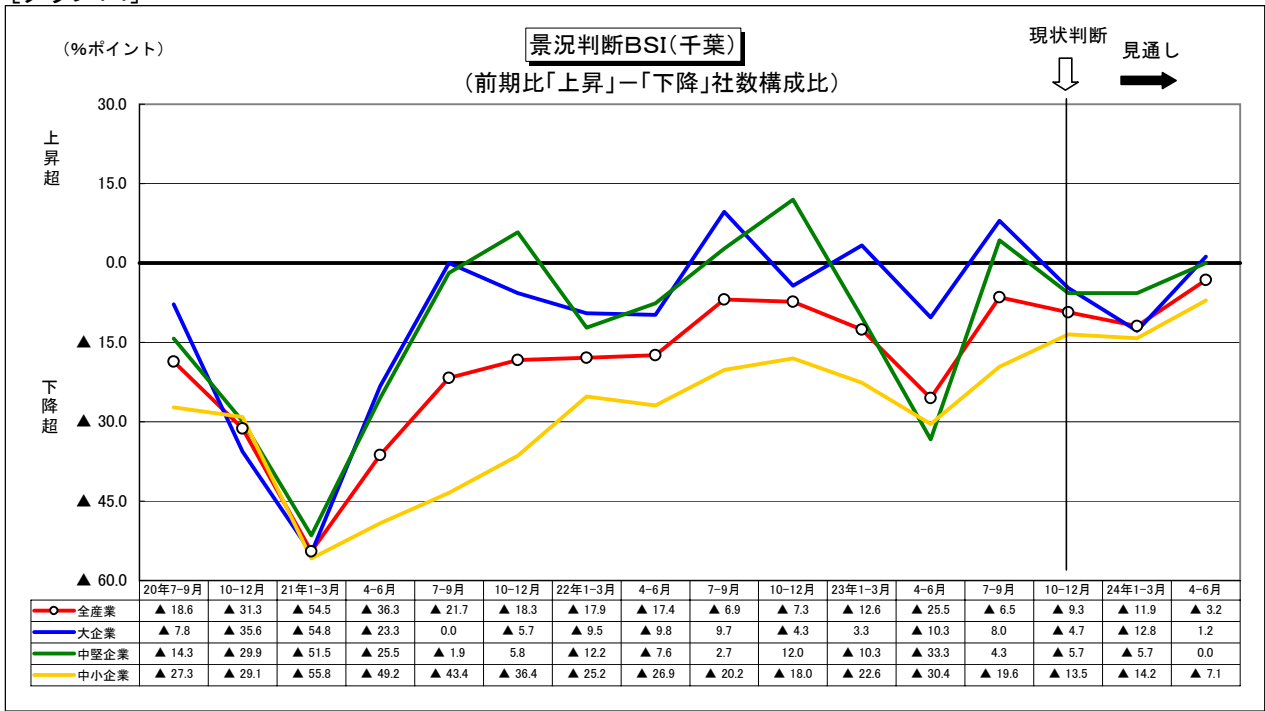
[グラフ13]



7. 景況感

全産業で「下降」超幅が拡大している。

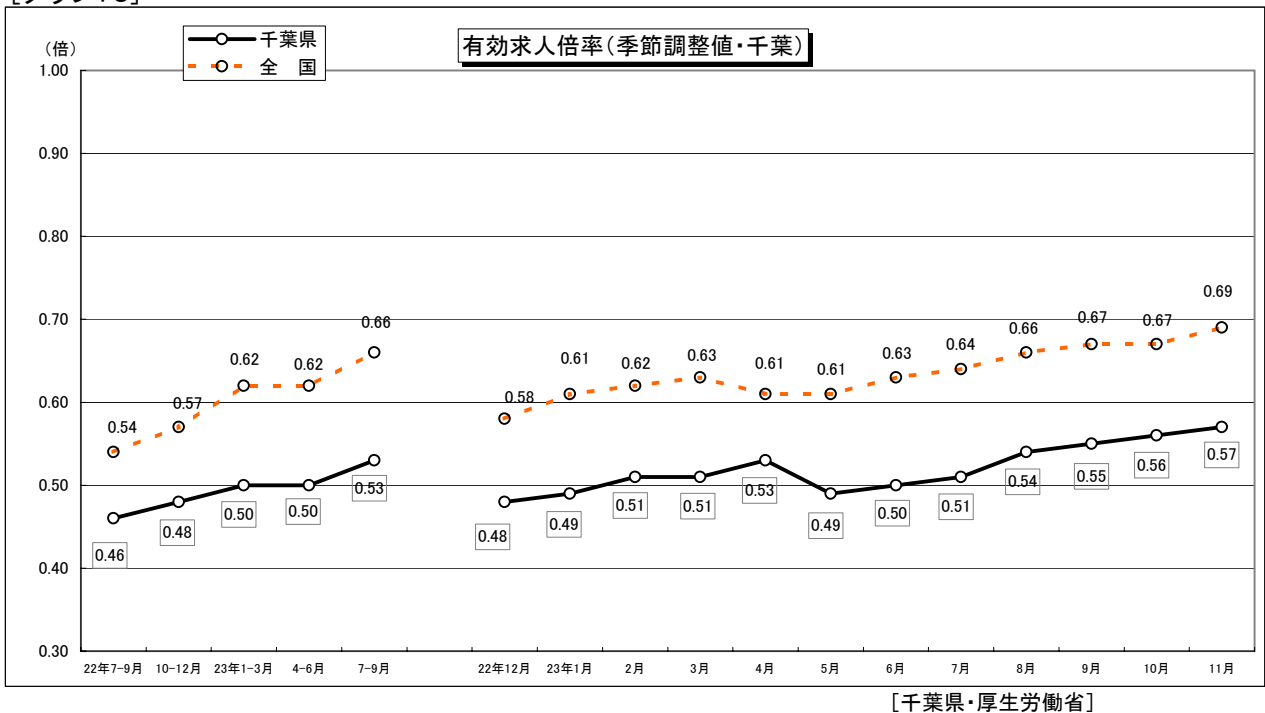
[グラフ14]



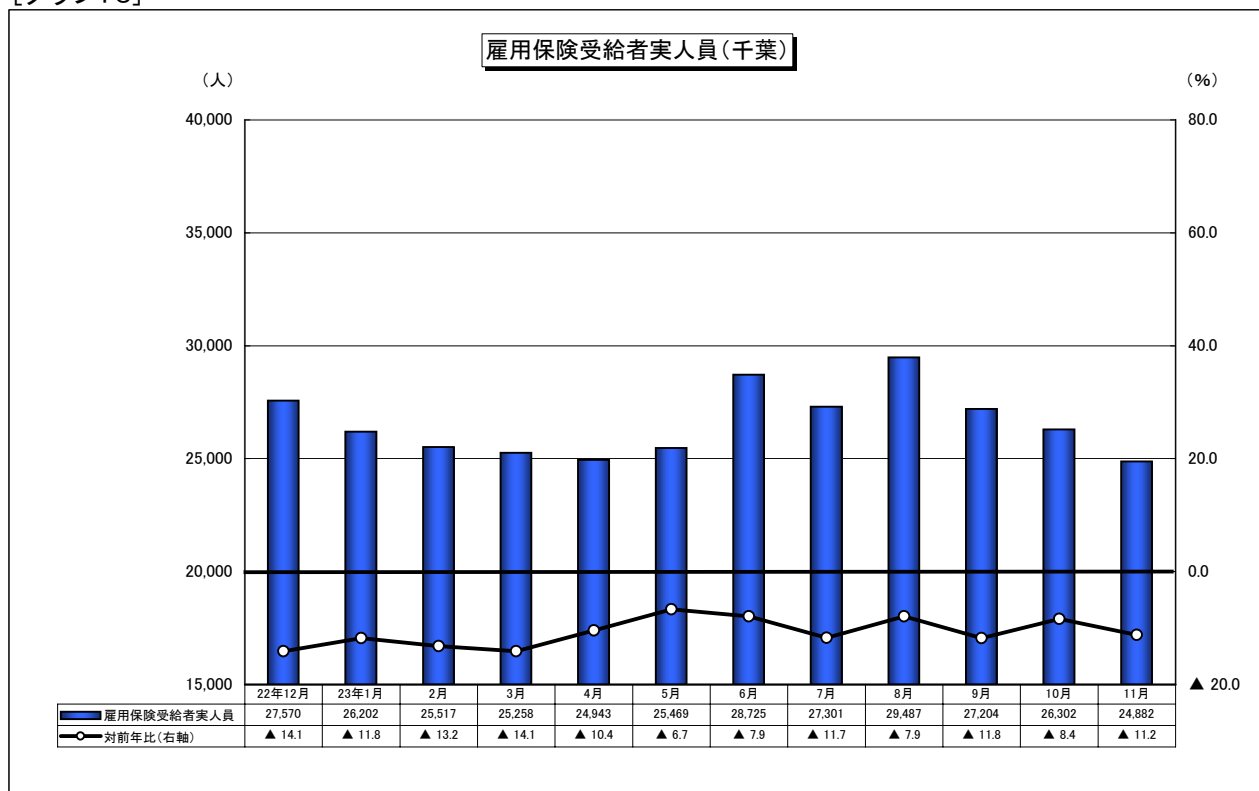
8. 雇用情勢

厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。

[グラフ15]



[グラフ16]

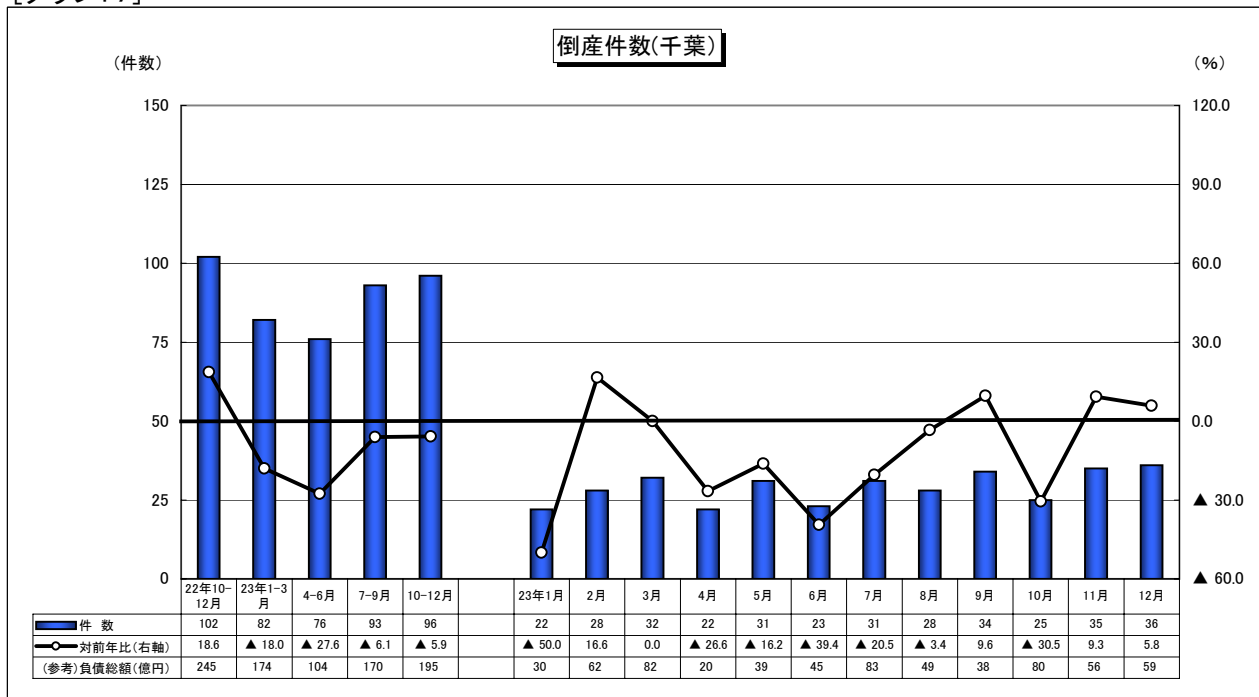


[千葉労働局]

9. 倒産

前年を下回っている。

[グラフ17]



[東京商工リサーチ]